

内閣総理大臣

安倍晋三様

要 望 書

原発再稼働反対と再生可能
エネルギーへの転換について

平成27年 9月18日

福島県南相馬市長 桜井 勝延

福島県南相馬市議会議長 平田 武

平成27年8月11日に鹿児島県薩摩川内市の川内原発1号機の再稼働がなされた。安倍内閣総理大臣は「福島復興なくして日本の再生なし」と明言したが、福島第一原子力発電所事故が収束していない中での再稼働は、言語道断であり、認めることは出来ない。

今、改めて、脱原発を訴える重要性を強く深く認識している。

当市では、原発事故後、避難を余儀なくされ現在まで478人の貴い命が失われた。事故後4年を経過した今もなお、約1万9千人の市民が避難を余儀なくさせられている。避難生活が何も変わらない中での原発の再稼働はフクシマを冒瀆するとともに、避難者に不安をもたらし、生きる希望を失わせることになるだけだ。

本年3月25日に当市は、「脱原発都市」を宣言した。万が一原発事故が起きたら、また、先の見えない避難生活を強いられ、家族が引き裂かれ、生業を失い、地域を失うことになる。

このような悲劇が二度と繰り返されるようなことがあってはならない。

南相馬市は、国に対し、原発依存を脱却し再生可能エネルギーを中心としたエネルギー政策へ転換することを強く要望する。